ウッドデッキの中庭

上｜ラテン語の刻まれた外壁の付け桁　下｜アプローチと古民家

古民家再生利用のために選択された木造準耐火構造

特別養護老人ホーム よりあいの森

設計監理：風土計画一級建築士事務所

「宅老所よりあい」は 1991 年、一人の独居老人に始まる在宅支援の拠点であったが、諸環境の変化とともに「住まい」の場を確保する必要が生じ、2011 年 3 月、初めて地域密着型の特別養護老人ホームの建設に挑むこととなった。早速、職員と支援者らの会合が始まり、さまざまな知見やアイデアが持ち寄られる中、地域住民が主人公となる“特養に入らなくてすむ特養”という概念が打ち立てられた。やがてミーティングは計画ワークショップの形へ移行する。

敷地内には豊かな緑と築 70 余年の民家があった。ここを工事中から地域で孤立するお年寄りへの食事提供のカフェとして活用できないか、そしてオープン後はこのカフェと特養との連携が実現できないか、というアイデアもこのワークショップから生まれた。これは古民家カフェが地域と特養をつなぐ接点となることを意味する。解体やむなしと皆が考えていたこの民家は、ついには森の顔として存続させることになる。

しかしこのことが施工上の制約を生み、建物の構造は木造に絞られた。折しも 2 階建て特養の準耐火を可能とする厚生労働省令の改正を受け、市では消防局と保健福祉局間での協議を進めていた。諸条件をクリアするには大きな労力と時間を要したが、本件はその適用第 1 号となった。古民家を残し、緑を守り、さらにコスト調整という面で「木造」の果たした役割は大きい。

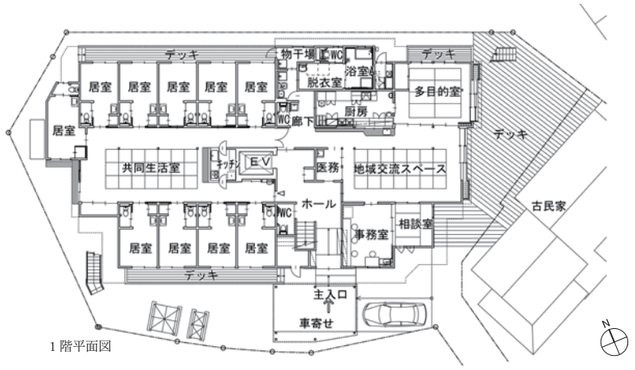
建物は 2 階建てで 3 ユニット構成である。1 階に 1 ユニットとショートステイ 2 室、管理諸室と地域交流スペースを置き、2 階に 2 ユニットを配した。調理は1階の主厨房と各ユニットに設けたキッチンの 2 段階として弾力的に使い分けている。地域交流スペースと多目的室は東のデッキ広場へ解放され、さらに対面の古民家カフェとつないで地域の人々との日常的な交流が生まれている。建築と空間がいずれも図として働く密度の濃い場となった。（大坪克也）

畳敷きの地域交流スペース

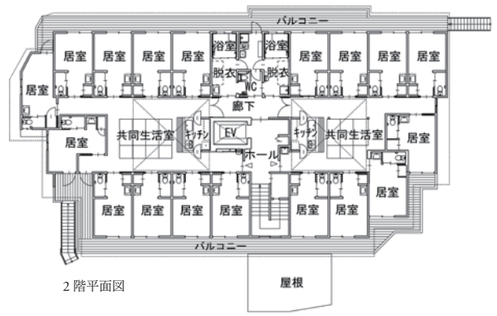
空気床暖房が納められた厨房前カウンター

計画ワークショップ風景

© Google



1 階平面図



2 階平面図

立面図

所在地	福岡市城南区別府 7 丁目 9-22
建築主	社会福祉法人　福岡ひかり福祉会
用途	特別養護老人ホーム
定員	26 名＋ショートステイ 2 名
床数	28 床
設計担当	大坪克也
構造設計	川﨑構造設計
設備設計	シード設計社
施工	山口工務店
構造・規模	木造在来軸組工法（準耐火）　地上 2 階
敷地面積	1,221㎡
延床面積	910㎡
竣工	2015 年 3 月
撮影	西日本写房福岡